

特集
木造軸組



東日本



ウッドショックで木材・合

板の仕入れが難航し、当時はホームセンター店頭まで資材調達に奔走したプレカット会社もあったが、今の状況は一変した。本紙のウッドショック連載の副題は「饗宴か変革か」としたが、資材高や受注増で過去最高の収益を計上げた工場も少なくなかったが、今期は受注低迷で減収を余儀なくされるところがほとんど

新築戸建て不振、期待感是非住宅へ

4号特例縮小、大手は既に対応力

異年だったといえればそれまでだが、ほぼすべてのプレカット工場が忙しさを享受した時期は過ぎ去り、22年度から生き残りをかけた競争に再び見舞われている。

数十年前から到来することは指摘されており、その将来トレンドのなかで設備投資に励んだり、人材育成に取り組んできたりにしている。

また、プレカット機械の技術も進んでおり、非住宅向けの大断面加工を得意とする機種や、少ない工員で効率的な加工ができる機種などが発売されている。後者は工員の作業負担まで軽減して結果的に社員定着率を上げようとする方向性といえる。

既に大手を中心に自社で対応できるところは少なくないため、大手からは決定的な差別化にはなりにくいようだが、今後PRを強化していくとの声もある。一方、自社対応ができない工場は設計事務所と連携したり、外注で応じたり、なかにはもう少し同業他社の動きを見極めたいという様子見姿勢のところもある。

新築住宅はいずれ50万戸や40万戸に縮小するといわれ続けた。住宅市場の縮小は今に始まった傾向ではなく、既に

本紙プレカット調査でも加えた工場も少なくなかったが、

40万戸に縮小するといわれ続けた。住宅市場の縮小は今に始まった傾向ではなく、既に

住宅用ラインを駆使して対応する工場もあれば、より複雑で加工速度が速い機種を

導入するところもある。ハードだけでなく、CADオペレーターや専用営業マンの育成・拡充も重要になる。

他社との競争に勝つためには、コスト削減や生産性向上が求められる。昨今、木材価格の高騰や人手不足の影響で、プレカット工場の経営は厳しくなっている。大手企業は、これらの課題を克服するために、さまざまな対策を講じている。

非住宅CADの機能向上

在来仕口、構造計算、BIM連動

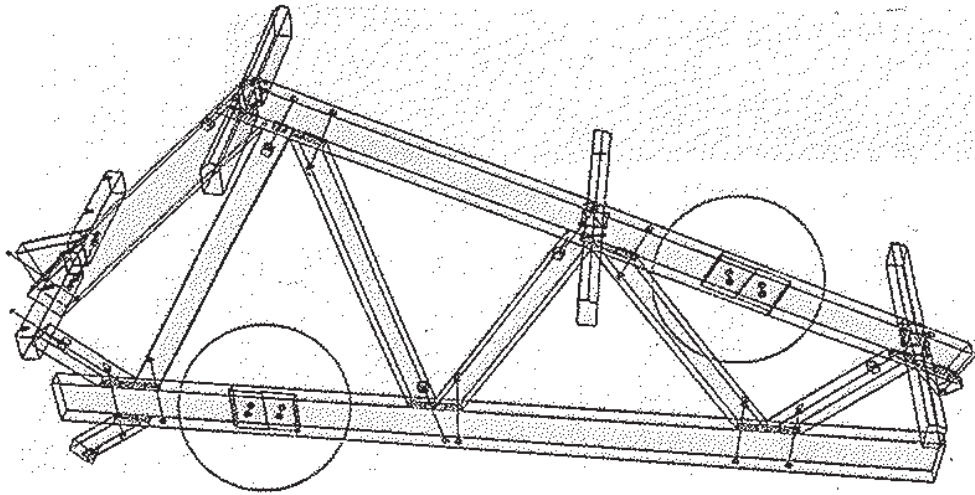
ネットイーグル

ネットイーグル（福）の連携システムを次々

岡市、祖父江久好社と開発し、機能を向上（長）は、非住宅プレカさせている。最近ではットCAD「XF15」従来対応できなかった

在来工法の複雑な仕口の加工実寸法を機械口、継ぎ手の加工に対応したほか、面積制限で保持することで、異なく入力できる構造計算システム、BIM連動のためのインターフェイスをそれぞれ開発した。

在来仕口への対応では、従来のプレカットCADと異なり、接合せず、複数の工場では、建物の規模によっては1工場では対応できず、複数の工場では



XF15では従来の金物工法に加えて、追掛大栓継ぎなど
 在来工法の複雑な継ぎ手、仕口にも完全対応した

加工を分散する場合、加工形状が同じ金
 物工法ならどの工場でも同じ加工がで
 きるが、加工形状が異なる在来
 工法の場合、同じメーカーの加工機を選
 ぶ必要があった。XF15では各機械メ
 ーカーの協力を得て、CAD側の設定寸法
 で在来工法を加工できるようにした。こ
 れにより、住宅向けのXstarでは
 対応できなかった複雑な仕口、継ぎ手の
 加工も可能になった。

新開発の構造計算システム「NSC15」
 は、自社開発の構造計算エンジンを搭載
 した構造計算（許容応力度計算・ルート1）
 システムで、従来のスピードルXでは対
 応できなかった2000平方メートル以上の
 物件にも面積制限なく対応できる。

BIM連動では、同社のプレカットCAD
 で作成した構造データをオートデスクの
 BIMソフト「Revit（レビット）」で読み
 込むためのインターフェイス（I/F）を開
 発した。

同社はさきごろ、東京ビッグサイトで開
 催された「非住宅木造建築フェア」に出展
 し、これらの機能を踏まえた非住宅木造建
 築プレカットの可能性をアピールした。同
 社の新規顧客74社、既存顧客140社が訪
 れ、同分野への関心の高さを実感したとい
 う。